

神戸親和女子大学 研究論叢

総目次 (自第一号 至第三十号)

第一号 (昭和四三年五月)

発刊にあたって

あいさつ

芭蕉連句出典考

——寛文五年より延宝八年まで——

日本霊異記話型の一考察

校訂・家伝上 (大織冠伝と貞慧伝)

『温故日録』——解説と翻刻——

性格の認知構造に関する一考察

W. Cather の初期の短篇と H. James

E. M. Forster の “Aristocracy” について

——Howards End を中心に——

Shelley's Defence of Poetry

——インスピレーションを中心として——

第二号 (昭和四三年十二月)

「宣はす」「仰せらる」とその周辺

遠藤 嘉基

恩賀 一男

島居 清

稲田 浩二

植垣 節也

島居 清

榊田 登

沖田 一

堀田寛太郎

小松 文雄

穂田 定樹

芭蕉連句出典考

——延宝九年から貞享元年まで——

隆源僧正五十首——解題と翻刻——

『温故日録』巻第一・二

真理ということ

シェイクスピアの喜劇とその疎外者

W. Hazlitt における ‘Ideal’ の意味

F. M. フォードとヘンリー・ジェイムズ

イエーツ詩抄 (訳稿)

第三号 (昭和四四年十一月)

謙讓語と謙讓語表現

播磨国風土記の本文校訂考

芭蕉連句出典考

——貞享二年から同三年まで——

『温故日録』巻第三・四・五

文の構造

島居 清

国枝 利久

島居 清

河瀬 憲次

出水 春三

橋 泰来

沖田 一

松田 誠思

穂田 定樹

植垣 節也

島居 清

島居 清

内藤 好文

日本におけるシェリイの紹介と研究

——明治大正時代——

小松 文雄

W. Hazlitt の Imitation 論

橋 泰来

スポーツ志向に関する調査

谷田憲二郎

井関 真欣

阪上 光代

各大学紀要受贈目録

第四号 (昭和四六年三月) 故出水教授追悼号

木下順二論——民話劇を中心に——

植垣 節也

芭蕉連句出典考

島居 清

——貞享四年から元禄元年まで——

『大坂独吟集』注釈(一)

乾 裕幸

——解説・凡例・幾音独吟注釈・索引——

「山家鳥虫歌」「鄙廼一曲」覚書

国枝 利久

『温故日録』巻第六・七・八

島居 清

この人を見よ

松田 誠思

——出水春三先生の死によせて——

出水先生のこと

堀田寛太郎

出水春三先生略歴

ドイツ語の音韻組織

家族関係の認知に関する研究

日本におけるシェリイの紹介と研究

——明治の部・改訂増補——

遺稿

An Introduction to Edgar Allan Poe

出水 春三

各大学紀要受贈目録

第五号 (昭和四七年三月)

芭蕉連句出典考

島居 清

——元禄二年——

『温故日録』巻第九・十・十一

島居 清

シェリイの散文にあらわれた

イエスとその教義

小松 文雄

ゴート語前置詞 us の用法について

吉岡 治郎

家島群島植物探訪記

濱田 秀男

第六号 (昭和四八年五月)

尊敬語と謙讓語

穂田 定樹

『温故日録』卷第十二・十三・索引

島居 清

ゴート語前置詞 at の用法について

吉岡 治郎

日本語の音韻組織

内藤 好文

Joshua Reynolds の絵画論

橋 泰来

——付 Du Fresnoy 画論詩の紹介——

Meditations in Time of Civil War について

——W. B. Yeats の詩(1)——

松田 誠思

第七号 (昭和四九年五月)

カントと非ユークリッド幾何学

宮地 正卓

——幾何学の客観的妥当性に関する

ある対立をめぐって——(未完)

『郡山』の性格——俳諧論戦史の内——

乾 裕幸

ドイツ語の韻律

内藤 好文

シェリーのプロミッシュュース

小松 文雄

Coinaghtyn Manninagh 註解

吉岡 治郎

(Manx Reminiscences)

第八号 (昭和五〇年六月)

カントと非ユークリッド幾何学

宮地 正卓

——幾何学の客観的妥当性に関する

ある対立をめぐって——(承前)

隻鱸輪——翻刻と解題(一)

島居 清

フランス語における属詞について

平田 敬一

Joshua Reynolds の絵画論(II)

橋 泰来

——付 Du Fresnoy 画論詩の紹介——

英語の文法的主語・述語

有馬 道子

Harold Pinter の演劇(I)

則藤 力

『犠牲者』論

田畑 千秋

第九・十号 (昭和五一年十月) 開学十周年記念号

開学十周年を迎えて

桑門 俊成

カントと非ユークリッド幾何学

宮地 正卓

——ナトルプのカント理説擁護に関連して——

風土記は文学書か

植垣 節也

ワラフとエム

蜂矢 真郷

——類義語の一側面——

法華經信解品の和歌

—— 釈教歌研究の基礎的作業(四) ——

国枝 利久

『大坂独吟集』注釈(一)

—— 素玄独吟注釈・索引 ——

乾 裕幸

芭蕉連句出典考

—— 元禄三・四年 ——

島居 清

隻纏輪——翻刻(一)

島居 清

「真鶴」試論

—— 志賀直也と映画 ——

唐井 清六

A Language and a World-View: A Denial
of the Unjust Criticism of Sapir-Whorf
Hypothesis

有馬 道子

Jane Austen の Emma について

堀田寛太郎

「わが娘のための祈り」

松田 誠思

—— W. B. イェイツ詩の評釈(2) ——

Harold Pinter の演劇(Ⅱ)

則藤 力

Joshua Reynolds の絵画論(Ⅲ)

橋 泰来

—— 付 Du Fresnoy 画論詩の紹介 ——

学校図書館資料の効果的利用

—— E. Dale の理論を中心に ——

山田 泰嗣

神戸市の社叢林

濱田 秀男

繰返しゲーム事態における

経験的ベイズ戦略の実験的分析

瀧川 哲夫

第十一号(昭和五三年三月)

カントの先験的理説と物理学的空間論

宮地 正卓

—— 二律背反論を適用したマルチンの

カント擁護に関連して ——

ホーフマンスタール『昨日』

内田 正博

芭蕉連句出典考

島居 清

—— 元禄五・六年 ——

アメリカにおける公教育の

歴史的構造と教育の官僚制

橋口 泰宣

実験制御モニター「TYMES/PTS

瀧川 哲夫

『La Nouvelle Heloise』から『Emile』へ 横山ひろみ

—— 二つの女性像の考察 ——

動詞句補語 (VP Complement)

の妥当性について 中島 信夫

白人主義の悲劇

——『オールメイヤーの阿房宮』論——

外狩 章夫

Harold Pinter の演劇 (Ⅲ)

則藤 力

メディア・プログラムへのアプローチ

山田 泰嗣

——学校図書館基準についての考察——

第十二号 (昭和五四年二月)

『肥前風土記纂註』について

植垣 節也

芭蕉連句出典考

島居 清

——元禄七年——

隻鱸輪——翻刻(三)

島居 清

サピア・ウォーフの仮説と

“codability” について

有馬 道子

束縛変項 (bound variable)

として扱われる代名詞について

中島 信夫

“Falk” の世界へ Mr. Nicholas B.

外狩 章夫

Harold Pinter の演劇 (Ⅳ)

則藤 力

Jane Austen: Persuasion について

堀田寛太郎

アマチュアリズムの展望

二杉 茂

第十三号 (昭和五五年二月)

『第六七二夜の物語』覚書(一)

芭蕉連句出典考

島居 清

——年代未詳・補遺・存疑・参考——

校本・宗也著『四国道乃記』

櫻井武次郎

隻鱸輪——翻刻(四)

島居 清

ルソーに於ける幸福の概念について

横山ひろみ

事象系列の生成規則と予想行動

瀧川 哲夫

児童期の健康観察について

二杉 茂

神戸市の雑草群落

濱田 秀男

田中 康司

第十四号 (昭和五六年二月)

隻鱸輪——翻刻(五)

島居 清

セバシ (シク活用) 覚書

蜂矢 真郷

カントの「アプリアリな形式」

についての一考察

宮地 正卓

——その二義性に対するW・エアリヒの

批判をめぐって——(未完)

『第六七二夜の物語』覚書(二)

内田 正博

読解指導における二元の統合(その一)

大西 久一

—— 時枝理論「たどり読み」の実践的考察 ——

政治と個人の倫理

外狩 章夫

—— *Under Western Eyes* の主題 ——

モンタギュ文法による知覚動詞構文の分析

(A Semantic Analysis of the Perceptual-Verb Construction based on Montague Grammar)

中島 信夫

睡眠発生と慣れの解除

広重 佳治

—— 末梢血管反応について ——

世界選手権大会からみた

全日本女子の現状と課題

二杉 茂

バスケットボールゲームにおける

長身チームの有利性について

二杉 茂

学習指導要領の改訂と学校図書館

山田 泰嗣

第十五号 (昭和五七年二月)

語末索引について

蜂矢 真郷

—— 『時代別国語大辞典上代編』語末索引稿』の試み ——

カントの「アプリアリな形式」

についての一考察

宮地 正卓

—— その二義性に対するW・エアリヒの

批判をめぐって —— (承前)

読解指導における二元の統合(その二)

大西 久一

—— 時枝理論「たどり読み」の実践的考察 ——

『第六七二夜の物語』覚書(三)

内田 正博

隻鱸輪 —— 翻刻並索引 —— (六)

島居 清

Jane Austen: *Pride and Prejudice* について

堀田寛太郎

イエイツ詩における乞食Ⅱ放浪者の夢

松田 誠思

—— “The Wild Old Wicked Man” の肖像 ——

ルソーに於ける演劇と道徳感

横山ひろみ

—— *Lettre à Mr. D'Alembert sur les*

spectacles より —— (I)

台湾栽培植物の由来

濱田 秀男

親和女子大学における定期健康診断の

受診実態とその認識について

二杉 茂

第十六号 (昭和五八年二月)

「黒鳥傳治文庫」について

佐藤 和夫

『芭蕉句解』——翻刻と解題——

島居 清

テクストの意味解釈の方法

有馬 道子

——そして、創造性の類型——

Toward a Non-delection Grammar Norio Suzuki

日本語における色彩語彙の構造 長澤 宣親

定位・防御反射の指標としての頭部血管反応

——刺激強度および覚醒・睡眠段階の効果——

広重 佳治

永村 寧一

内部非平衡を伴う気体流中の十分に分散した

きわめて弱い衝撃波に関して

山口 巖

鬼遊び

曾和 光代

田村 伸子

図書館学教育における実習の意義

山田 泰嗣

第十七号 (昭和五九年二月)

或る蔵板目録を調査して

大坪 利絹

雑誌「アポロン」細目

佐藤 和夫

カントと非ユークリッド幾何学および物理学的空間論

——W・ブレッカーのカント擁護に関連して——(一)

宮地 正卓

ヘルムート・シェルスキーの教育社会学 溝川 良一

——『産業社会の学校と教育』の七要点——

The Sound and the Fury における意識の構造

——Benjy Sectionを中心に——

瀬尾 修

入眠時の slow eye movement (SEM) 広重 佳治

——睡眠状態の指標としての可能性——

ルソーに於ける演劇と道德観 横山ひろみ

——Lettre à Mr. D'Alembert sur les

spectacles より——(II)

小学生における性役割の受容度 南 憲治

女子大学生の生涯体育指向の研究 井関 眞欣

学校図書館形成期の一考察 山田 泰嗣

——京都の場合を中心に——

第十八号 (昭和六〇年二月)

「ハンス・カロッサ」覚書

村山 正雄

——作品化された医師たちをめぐる——(一)

カントと非ユークリッド幾何学および物理学的空間論

——W・ブレッカーのカント擁護に関連して——(二)

宮地 正卓

芭蕉翁附合集評註(一)

島居 清

——翻刻と解題——

The Sound and the Fury の四部構造について

瀬尾 修

Chaucer の *The Manciple's*

Prologue における "penance"

柴田 竹夫

フランス語における色彩語彙の意味構造 (I)

長澤 宣親

阪神地区の諸都市が

地震被害を受ける危険度に就いて

三東 哲夫

内部非平衡を伴う気体流中の十分に分散した

きわめて弱い斜め衝撃波の構造

山口 巖

入眠状態と緩徐眼球運動 (SEMs)

広重 佳治

——SEMs の記録方法と定量的分析について——

石塊遊び

曾和 光代

第十九号 (昭和六一年二月)

幕末期の豪農経営

前嶋 雅光

——草莽志士進藤俊三郎家の場合——

カントと非ユークリッド幾何学および物理学的空間論

——W・ブレッカーのカント擁護に関連して——(三)

宮地 正卓

軽太子の物語——記紀のあいだ——

辻 憲男

『明汗稿徒然草奥儀抄』(一)

大坪 利絹

——翻刻と解説——

芭蕉翁附合集評註(二)

島居 清

『筆のさが』と景樹社中

田中 仁

——香川景樹の手紙一通——

イエイツのデアドラ像

松田 誠思

——能動的な死の選択——

Mansfield Park について

堀田寛太郎

フランス語における色彩語彙の意味構造 (II)

——文学作品における人物描写の解釈に向けて——

長澤 宣親

小学生における性役割の認知

南 憲治

入眠時の眼球運動

広重 佳治

——SEMs と収斂性眼球運動——

ある地域に於ける地震活動の長期的変動(その1)

——京都付近——

三東 哲夫

子供と遊び

曾和 光代

学校図書館の制度確立期における一考察

山田 泰嗣

——指導機関としての原点を求めて——

第二十号(昭和六一年十一月) 開学二十周年記念号

科学的認識における帰納的推論(一)

宮地 正卓

——ポパーとライヘンバッハの対立をめぐって——

「ハンス・カロッサ」覚書

村山 正雄

——作品化された医師たちをめぐって——(一)

『菅家金玉抄』てにをは考

蔵中 スミ

——付・翻刻『菅家金玉抄巻第七』——

萬葉集卷十の分類と配列

辻 憲男

萬葉集卷十六の漢語

山崎 福之

——「歎歎」をめぐって——

『明汗稿徒然草奥儀抄』(二)

大坪 利絹

——翻刻と解説——

芭蕉翁附合集評註(三)

島居 清

第三の『仏兄七久留万』

櫻井武次郎

『筆のさが』と柏原正寿尼・補遺

田中 仁

——その後の論争と正寿尼——

大原美術館と「白樺」の人たち(一)

唐井 清六

——美術館二十周年記念行事のこと——

コンラッド重要書簡の研究(一)

外狩 章夫

——選択と翻訳と註解——

変革期の農村構造

前嶋 雅光

——但馬国養父郡建屋上組村々の場合——

デューイ相互作用論の教授学的検討

山本 順彦

——「主体—主体」の教育的関係の成立の観点から——

モンテッソーリ教育の基礎理論(一)

山根 耕平

——子どもの事実学ぶ教育——

大脳構造からみた人間教育

山口 治

——とくに人間の成長・発達の基本をふまえて——

「読みとり方の指導」の探究

大西 久一

——言語過程説をふまえた考察と展開——

マッジ・ワイルドファイアのこと

——スコットの曖昧なロマン主義——

キャロル・アンダーソン

W. Faulkner の As I Lay Dying

における語りの構造

瀬尾 修

詩劇『煉獄』の舞台装置をめぐって

松田 誠思

言語による認識と現実との相違についての一考察

長澤 宣親

ルソーに於ける従属性について

横山ひろみ

小学生における性役割の認知(Ⅱ)

南 憲治

緩徐眼球運動と意識状態

広重 佳治

地球・人間・環境

三東 哲夫

リポポリサッカライド低応答性マウス

における骨髄B細胞の発育調節

松本 雄雄

軸対称ノズル内の遷音速流れ

山口 巖

故里への思い

橋本 喬雄

——「丹生山音頭」と「ぎおん囃子と宮入り歌と」——

バスケットボールにおける

フリースロー・レインと制限区域の変遷

二杉 茂

教科体育に関する一考察

井関 真欣

——学生の意識・態度について——

生涯体育を決める要因について

——女子大学生のスポーツイメージより——

分類法の原理とNDC

井関 真欣
曾和 光代
山田 泰嗣

第二十一号(昭和六三年二月)

科学的認識における帰納的推論

宮地 正卓

——ポパーとライヘンバッハ

の対立をめぐって——(二)

「ハンス・カロッサ」覚書

村山 正雄

——作品化された医師たちをめぐって——(三)

源氏物語の手紙——数と形と——

田中 仁

『明汗稿徒然草奥儀抄』(三)

——翻刻と解説——

大坪 利絹

大原美術館と「白樺」の人たち(二)

唐井 清六

——美術館二十周年記念行事のこと——

コンラッド重要書簡の研究(四)

外狩 章夫

——選択と翻訳と註解——

道徳教育の動向とその課題

山根 耕平

Maisie について「知る」とは何か

難波江仁美

——Henry James の

What Maisie Knew 一考察――

女子大学生における性役割の認知

南 憲治

入眠時の脳波と

眼球運動のスペクトル解析の試み

広重 佳治

傾斜海岸の上の水波

山口 巖

多人数教育における教育技法の問題点

松本 雄雄

――特に講義の客観的評価について――

大学に於ける運動クラブ活性化の一考察

井関 眞欣

但尾 哲哉

第二十二号 (平成元年二月)

科学的認識における帰納的推論

宮地 正卓

――ポパーとライヘンバッハ

の対立をめぐって―― (三)

『菅家金玉抄』部立考

蔵中 スミ

――勅撰集・私撰集・菅家歌集との関連において――

(付・翻刻『菅家金玉抄巻第八』)

『明汗稿徒然草奥儀抄』(四)

――翻刻と解説――

大坪 利絹

『蓮実』連句註釈

櫻井武次郎

コンラッド重要書簡の研究(五)

外狩 章夫

――選択と翻訳と註解――

デューイ「トランズアクション」論の教授学的検討

――「トランズアクション」概念の検討を中心に――

山本 順彦

入眠期の脳波パワ変動と緩徐眼球運動

広重 佳治

触分割呈示法に関する文献展望

南 憲治

――被験者が子どもの場合――

Little Dorrit ニッソ

堀田寛太郎

大学生の食物摂取に関する調査

――食物摂取と居住条件・運動経験の関係から――

但尾 哲哉

東條 順子

第二十三号 (平成二年二月)

霊元院歌壇と菅原長義・勘解由小路韶光

蔵中 スミ

――付・菅原長義 勘解由小路韶光 作品年譜――

『明汗稿徒然草奥儀抄』(五)

――翻刻と解説――

大坪 利絹

日本書紀本文・一書記事対照表 (研究資料)

辻 憲男

コンラッド重要書簡の研究(六)

外狩 章夫

—— 選択と翻訳と註解 ——

辺境の重層性

ギャビン・ウォーレス

—— コンプトン・マッケンジー再評価のために ——

カント「ア・プリオリ」の無批判的前提

宮地 正卓

Saussure における valeur 概念と

signification (sens) について

長澤 宣親

現代高校生の価値志向と

その規定要因の教育社会学的研究

宮崎 和夫

—— 社会的シニズムと同調志向をめぐって ——

幼児が演じて遊ぶ楽しさとは何か

田川 浩三

—— 新幼稚園教育要領の検討 ——

子どもの認識と数学教育

本間 俊宏

—— 論理性についての考察 ——

高度情報化社会の図書館プラン

山田 泰嗣

入眠時緩徐眼球運動の

DC記録とAC記録の比較

広重 佳治

全国都道府県対抗中学バレーボール大会における

勝敗に関する一考察

—— 形態・ジャンプ力及び経験年数からみて ——

第二十四号 (平成三年二月)

拾遺和歌集の萬葉歌

辻 憲男

翻刻『徒然要艸』(一)

大坪 利絹

実録・「山月記」の実習授業

菅野 圭昭

コンラッド重要書簡の研究(八)

外狩 章夫

—— 選択と翻訳と註解 ——

美について

ジェームズ・カーワン

Analecta Indica

松村 恒

自然言語の理解と人工知能

長澤 宣親

学校と地域社会

宮崎 和夫

—— その教育社会学的考察 ——

触分割呈示法に関する文献展望

南 憲治

—— 被験者が成人の場合 ——

第二十五号 (平成四年二月)

狩野永納筆『三十六人歌仙』についての考察

但尾 哲哉
宮内 一三

——歌仙絵と歌仙和歌の問題——

藏中 スミ

翻刻『徒然要艸』(二)

大坪 利絹

文学における動物変身について

松本 雄雄

コンラッド重要書簡の研究(九)

外狩 章夫

——選択と翻訳と註解——

低学年カリキュラムの内容に関する教授学的研究(Ⅱ)

——デューイにおける「遊び」「仕事」の統一——

山本 順彦

ヒュームの因果論についての一考察(1)

宮地 正卓

緊張と不安の関係の研究

——試験直前の場合を中心に——

宮崎 和夫

軸対称ノズル内の遷音速流れ(そのⅡ)

北風 公基

孫基禎と「消えた国旗」

山口 巖

カントの美学・Ⅰ

ジェイムズ・カーワン

『浮気女』における女性像

菅野 圭昭

Analecta Indica

難波江仁美

『教育と情報』の教育について

松村 恒

日本語CV音節による両耳分離聴法

本間 俊宏

——ラテラリティ効果の検討——

南 憲治

第二十六号(平成五年二月)

寛永の三筆と三十六歌仙

——歌仙絵と歌仙和歌の系譜——

藏中 スミ

翻刻『徒然要艸』(三)

大坪 利絹

文学における動物変身について(その二)

——人の原始心性における蛇変身——

松本 雄雄

明治維新と封建教学

——池田草庵を中心に——

前嶋 雅光

ルソーの女子教育論と女性観

横山ひろみ

ヒュームの因果論についての一考察(2)

宮地 正卓

高校生の高等教育機関選定事由の研究

宮崎 和夫

日本語CV音節による両耳分離聴法

南 憲治

——注意配分の影響——

Analecta Indica

松村 恒

第二十七号(平成六年二月)

三十六歌仙和歌追考

藏中 スミ

翻刻『徒然要艸』(四)

大坪 利絹

コンラッド重要書簡の研究(十)

外狩 章夫

—— 選択と翻訳と註解 ——

文学における動物変身について(その三) 松本 雄雄
低学年カリキュラムの内容に関する教授学的研究〔IV〕

—— デューイにおける「遊び」「仕事」 ——

「知的探究」の連関と連続的發展(2) ——

山本 順彦

現代語古語辞典

岩坪 健

日本人の自我と家族関係の心理学的考察

山添 正

—— 「もらい子妄想」について ——

ルソーの女子教育

横山ひろみ

—— その現代的視点から ——

ヒュームの因果論についての一考察(3)

宮地 正卓

Analecta Indica

松村 恒

Kant's Aesthetics : II

James Kirwan

第二十八号(平成七年二月)

『徒然草大全』

大坪 利絹

—— 翻刻と解説 —— (一)

コンラッド重要書簡の研究(十一)

外狩 章夫

—— 選択と翻訳と註解 ——

Chaucer の The Man of Law's Tale

における "Joye after Wo"

柴田 竹夫

Analecta Indica

松村 恒

広告におけるキャッチフレーズの研究

長澤 宣親

入眠期研究における行動学的アプローチ

広重 佳治

一般教育科目講義に対する学生評価について

—— 質問紙法による分析 ——

松本 雄雄

大学生の父親像の研究

山添 正

—— 幻滅についての男女差について ——

道徳教育への「価値明確化」理論のアプローチ

—— その概要と考察 ——

山根 耕平

ルソー教育の現代的意味 I

横山ひろみ

—— 学問・芸術の影響について ——

第二十九号(平成八年一月)

オウム麻原彰晃逮捕の新聞記事

菅野 圭昭

『徒然草大全』

大坪 利絹

—— 翻刻と解説 ——

光琳・乾山と三十六歌仙

蔵中 スミ

—— 光琳の歌仙絵と乾山の歌仙和歌の書 ——

コンラッド重要書簡の研究(十二)

外狩 章夫

——選択と翻訳と註解——

親和学園校祖 友国晴子伝記稿

前嶋 雅光

Chaucer の *The Physician's Tale*

における語りについて

柴田 竹夫

Analecta Inica

松村 恒

広告におけるコピーの役割と手法

長澤 宣親

注意焦点化法による両耳分離聴検査の信頼性

南 憲治

生涯学習社会における高齢者の学習ニーズ

宮崎 和夫

——神戸市北区・兵庫区の場合——

原 清治

日本人の自我と家族関係の心理学的考察Ⅱ

山添 正

——「別れ空想」について——

第三十号(平成八年十月) 開学三十周年記念号

藤原広嗣の上表文を読む

辻 憲男

「世日光山の…」考

櫻井武次郎

——『おくのほそ道』解釈の問題点——

明治初期の新聞文章と言文一致運動

尾藤正二郎

——福地桜痴の「文論」を読む——

明治期の落語の新作について

三村 昌義

『しのびね物語』注釈(1)

岩坪 健

〈翻刻〉『狂歌初心抄』

小林 勇

〈書評〉「慶長二年版『新刊錦繡段』

印出字調査」について

大内田貞郎

「こころの居場所」創造のための実践的教育学(Ⅱ)

——デュリーの「経験と教育の理論」に学ぶ(2)——

山本 順彦

実存分析における主体的自由

宮地 正卓

——哲学的視点からの一考察——[1]

英訳をとおしての和歌の鑑賞

松本 雄雄

——試論——

蔵中 スミ

蔵中 さやか

広告のコトバ・広告表現の技法

菅野 圭昭

Case, Infinitives, and Diachronic

Syntax: A Minimalist Approach 鈴木 憲夫

EPP素性と不定詞補文の素性照合

小林 敏彦

チョーサーと *Affected Modesty* のトポス 柴田 竹夫

ロマン主義とケルト的特性——『ジェイン・エア』

と『嵐が丘』の自然描写を見る 佐野 哲郎

Joseph Conrad の添削として文章理念 外狩 章夫

—— Helen Sanderson 宛書簡より ——

『ダロウェイ夫人』について 堀田寛太郎

—— 講義録のために ——

Miscellanea Bibliographica 松村 恒

British Conservatism:

The Deferential View of Culture 赤石 眞澄

Trade Representations

—— The Construction of Cultural Difference

in the Context of United States-Japan

Economic Competition ——

Jeffry T. Hester

コンピューター社会がはらむ問題 長澤 宣親

ナチス第三帝国時代に生きる芸術家の運命 村山 正雄

—— ハンス・リッカルツサの場合 ——

ルソー教育の現代的意味Ⅱ 横山ひろみ

—— 現代における自然状態について ——

日本の子供の自我発達と友人関係 山添 正

Ambivalent Meanings of "Being a Mother":

—— Identity Formations of Japanese

"Sengyo-Shufu" Women (Full-Time

Housewives) in Their Child-Rearing

Practices ——

寺見 陽子

注意焦点化法による両耳分離聴検査に

みられるプライミング・バイアス 南 憲治

コールバーグにおけるディレンマ・

ディスクッション・アプローチ 山根 耕平

子どもとコンピュータ

本間 俊宏

—— 情報教育の視点から ——

説明的表現の指導

櫻本 明美

—— 書き出しの工夫に着目して ——

過疎地における生涯学習の実証的研究 宮崎 和夫

—— 兵庫県家島群島と但東町の場合 —— 原 清治

歌唱表現（テノール独唱）の記録 山本 裕之

生涯体育・スポーツ要因について（サッカー種目）

井関 眞欣

木谷 織信

本学における視覚障害者のスキー実践の一考察

曾和 光代

但尾 哲哉

超近代化した大都市の防災に役立つ地震予知法に就いて

三東 哲夫

女子大学の環境教育に関する一考察

古武家善成
